

○令和4年度 北海道「体験の風をおこそう」運動推進事業

「青少年教育者のためのSTEP UP セミナー」
 (①R4.4.21、②R4.6.20、③R4.10.25 各回日帰り)

令和4年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 開催要項

青少年教育者のためのSTEP UP セミナー

- 1 趣 旨 社会教育を進めていく上で必要な能力として期待されるファシリテーションやワークショップ等の理論と実践力を高める機会とする。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家
(企画・運営 北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会)
- 3 共 催 北海道青少年教育施設協議会
- 4 後 援 北海道教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長協会
上川管内教育委員会連合会 美瑛町 美瑛町教育委員会 ※予定
- 5 期 日 第1回 令和4年4月21日(木)
第2回 令和4年6月20日(月) } 全て13:00~16:00
第3回 令和4年10月25日(火)
- 6 会 場 国立大雪青少年交流の家
- 7 対 象 北海道青少年教育施設職員、社会教育関係職員、法人ボランティア 等
- 8 定 員 各回30名程度 ※先着順
- 9 参加費 無料
- 10 日 程

| | | | | | |
|----|----------|-------|-------|-------|-------|
| | 13:00 | 13:10 | | 15:50 | 16:00 |
| 開会 | 12:40 受付 | 開会 | 講義・実習 | 閉会 | |

11 プログラム・内容等

| 開催日 | 内容・講師 |
|-----------|--------------------------------------------------------------------|
| 4月21日(木) | 「演劇的手法によるコミュニケーション・ワークショップ」 【講師：富良野GROUP 久保 隆徳 氏】 |
| 6月20日(月) | 「アイズブレイクの考え方と実践」 【講師：自然考房(しぜんこうぼう) Nature Designing 代表 鈴木 宏紀 氏】 |
| 10月25日(火) | 「PAの考え方と実践」 【講師：東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科教授 ハミルトン・マーク氏】 |

12 申込方法・受付期間

(1)別紙1「青少年教育者のためのSTEP UP セミナー申込用紙」に必要事項を記入の上、メールで申込を行ってください。 ※先着順

(2)それぞれ、以下の期間にお申込みください。

第1回 4月8日(金)9:00~15日(金)17:00
 第2回 6月11日(水)9:00~10日(金)17:00
 第3回 10月7日(金)9:00~17日(月)17:00

(3)Web環境がない方は、裏面の問合せ先にご連絡ください。

◆目的

社会教育を進めていく上で必要な能力として期待されるファシリテーションやワークショップ等の理論と実践力を高める機会とする。

◆参加実績 (定員 各回30名)

令和4年4月21日(木) 9名

- ・道職員1名
- ・市町村教育委員会職員4名
- ・道立施設職員2名
- ・市立施設職員1名
- ・教員1名

令和4年6月20日(月) 10名

- ・市町村教育委員会職員5名
- ・道立施設職員3名
- ・市立施設職員1名
- ・教員1名

令和4年10月25日(火) 10名

- ・国立施設職員1名
- ・市町村教育委員会職員2名
- ・道立施設職員3名
- ・市立施設職員2名
- ・教員1名
- ・民営施設職員1名

◆プログラム

①「演劇的手法によるコミュニケーション・ワークショップ」
(4月21日 160分)

【講師：富良野GROUP 久保 隆徳 氏】

「シアターゲーム」と呼ばれる演劇的手法を用いたコミュニケーション・トレーニングについて、理論とともに実技を通してその手法を学んだ。

②「アイズブレイクの考え方と実践」
(6月20日 160分)

【講師：自然考房(しぜんこうぼう) Nature Designing 代表 鈴木 宏紀 氏】

アイズブレイクの意義や考え方について、その理論や種類を学ぶとともに、実技を通して理解を深めた。

③「PA(プロジェクト・アドベンチャー)の考え方と実践」
(10月25日 160分)

【講師：東海大学 教授 ハミルトン・マーク・C 氏】

コミュニケーション能力を高める様々なアクティビティを体験し、人間関係づくりの手法を学ぶとともに、ファシリテーションの考え方について理解を深めた。



◆事業運営・企画のポイント

- 青少年教育に携わる職員に求められる能力や技術を学び、それぞれの業務に生かせるように、理論と実技を中心としたプログラム構成とした。
- ナショナルセンターとして、地域の社会教育関係職員や関係機関に、質の高い研修の機会を提供できるように、それぞれの分野で著名な講師に指導を依頼した。

◆参加者の声

- 伝える事と伝わる事の違いや、受け取る相手の反応など、いろいろと学ぶことが多かった。
- 学校教育でも使えそうなゲームが多く、学級開き等で活用したい。回数をこなすことにより、効果的なゲームになることもわかった。
- 自分自身がアイスブレイクを行うことで、各ゲームの楽しさ、時間のかけ方のヒントになった。
- 「まずは楽しもう！」と「みんなが楽しめる雰囲気を作ろう」という目標を立てることで、アイスブレイクで楽しく活動する空間を作り出せることを身をもって体感できた。
- 講義ではなく、実際に自分たちが体験することでPAの価値に気づくことができた。
- 手法について知ることができた。自分自身で体験し、どういったことを考えたり、感じるかといったことを知ることができた。

◆事業の成果

- ①受講者が、それぞれの立場で青少年教育に携わる際に必要な知識や技術を身に付けることができ、教育活動に対する意欲をさらに高めることができた。
- ②北海道青少年教育施設協議会と連携して実施したことで、関係職員の資質向上に寄与することができた。

